

(様式1)

校 種	小 ・ 中	学校番号	2 3	学校名	宇都宮市立平石中央小学校
-----	-------	------	-----	-----	--------------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

豊かな人間性と創造力を持ち、自主的精神に満ち、心身共にたくましく、実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・ 明るく元気できたえる子（鍛える）
- ・ おちついてよく考える子（考える）
- ・ みんな仲よくきまりを守る子（思いやる）
- ・ ねばり強くやりとげる子（実行する）

※ 平央小の合言葉 「みんな 明るく なかよく 元気よく がんばるぞ」

2 学校経営の理念

「児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくり」

小規模校ならではの、児童一人一人へのきめ細かな対応を基盤に、児童が生き生きと自分らしさを発揮できる安心・安全な学校、家庭や地域からの信頼をもとにした地域とともにある学校、教職員が専門性を生かし自分の力を十分に発揮できる学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針

「小学校学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画 2025」「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」等に基づき、児童の実態を踏まえるとともに、家庭や地域との協働を進めるなど特色ある教育活動を推進する。

- (1) 児童が安心して楽しく通える学校づくりを進めるため、互いのよさを認め励まし合う雰囲気醸成するなど、全ての教育活動における個に応じた支援の充実を図るとともに、安全な学校づくりに努める。
- (2) 明るく元気できたえる子の育成に向け、体力の向上と望ましい食習慣の形成、そして安全教育の充実にも努める。
- (3) おちついてよく考える子の育成に向け、児童の学ぶ意欲の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実にも努める。
- (4) みんな仲良くきまりを守る子の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導の充実と、豊かな人間関係を築く教育活動推進にも努める。
- (5) ねばり強くやりとげる子の育成に向け、児童の自己肯定感を育むとともに、成功体験を繰り返せる環境づくりを推進し、未来を生き抜く力の醸成にも努める。
- (6) 家庭・地域・関係機関と連携、協働を推進し、社会に開かれた教育課程の視点から、地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくりに努める。

- (7) 教職員が高い使命感や、やりがいをもって勤務し、質の高い教育を行うため、業務の効率化を図るとともに、勤務時間の適正化に努める。
- (8) 鬼怒地域学校園の教育ビジョンを達成するため、地区内小中学校との情報共有、及び共通実践を通して、小中連携の一層の充実に努める。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、並びに小学校学習指導要領、県や市教育委員会の指導方針、学校経営方針等に基づき、児童や地域の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」を編成する。
- (2) 体験活動を重視した特色ある教育活動を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科横断的な学習、及び探究的な学習の充実に努めるなど、児童の知・徳・体バランスの取れた「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- (3) 鬼怒地域学校園の各校との連携を図り、小中一貫教育の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくりを推進するため、学校の組織力を高めるとともに、家庭や地域との連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。

- 児童が安心して通える、魅力あふれる安全な学校づくり
- 児童の学力向上を目指す学校づくり
- 児童の自己肯定感を育成する学校づくり
 - ・ 創立 150 周年記念事業に向け、家庭や地域と連携・協働体制の構築を図る学校づくり
 - ・ 業務の効率化と勤務時間の適正化等を図るための風通しの良い職場環境づくり

(2) 学習指導

- 基礎学力の定着を図る授業展開
 - 朝の学習や家庭学習を活用した学習習慣の形成 —

(3) 児童生徒指導

- 夢に向かって、粘り強く取り組む児童の育成
 - 家庭と連携し、児童の自己肯定感を育む取組の推進 —

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

- 自らの心身の健康に関心を持ち、進んで健康・安全な生活をしようとする児童の育成

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式 2～4 参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

- ① 基礎学力の確実な定着
- ② 自己肯定感やたくましさ、思いやりや人権を尊重する心の育成
- ③ 地域を大切に思う気持ちの醸成

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 基礎学力の定着を図るための取組の推進

◇令和5年度学力向上プロジェクト

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践
- ・教科等横断的な視点に立った学習活動の充実
- ・朝の学習、及び家庭学習の充実
- ・少人数指導や習熟度別学習、T Tを活用した基礎・基本の定着を図る支援の充実

◇ICTを効果的に活用した分かる授業の展開と、デジタルシティズンシップの育成

○複式学級の円滑な運営

② たくましさを涵養するための体験活動や縦割り活動の充実

○互いのよさを認め、励まし合う雰囲気醸成

- ・全ての教育活動における「人権感覚」の醸成

◇ファミリー班（縦割り班）活動

- ・共遊、登下校、清掃、運動会、児童会活動、全校給食、合同遠足

◇全校文集「ありの子」作成、配付

③ 地域とともにある学校づくりを進めるための家庭や地域と連携した協働活動の充実

◇地域学校協働活動の実施

- ・読み聞かせ、昔遊び集会、白寿の里との交流、平出むつみ幼稚園との交流、
グリーンカーテン設置、花火大会など

◇地域素材や関連施設を活用した校外学習

- ・L R T開業に合わせた、市役所や宇都宮ライトレール株式会社との連携

○令和6年度の創立150周年記念事業に向けた地域との更なる協働体制の構築

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

① 基本的考え

地域とともにある学校づくりを推進するため、家庭や地域との信頼関係を基にした地域学校協働活動の充実に努めるとともに、地域協議会の学校運営への参画を促進し、地域の教育力を効果的に活用した教育活動の充実に努める。

② 主な取組

- ・創立150周年記念式典に向け、実行委員会との連携促進
- ・学校を核とした地域づくりを進めるための、地域フォーラムの開催
- ・平石地区エリアサポートと連携した登下校時の安全確保

- ・地域人材を活用した体験活動の推進
(昔遊び集会, さつまいも作り, 教材園管理, グリーンカーテン設置等)
- ・地域コーディネーターとの連携による, 学校支援ボランティア活動の充実
- ・地域行事への積極的な参加, 協力 (地区文化祭, 育成会活動等)

(2) 小中一貫教育・地域学校園

① 基本的な考え

鬼怒地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため, 運営会議をはじめ, 各部会や分科会の活発化を図るとともに, それぞれの児童生徒や地域の実態に関する共通理解を行った上で, 9年間を通した継続的・系統的な教育活動を推進する。

② 主な取組

- ・鬼怒地域学校園の重点課題への対応
(基礎学力の定着, 学習習慣の形成, 主体的に学ぶ姿勢の育成, 規範意識の醸成, 自己肯定感の育成, 基本的生活習慣の育成, 心身の健康と食育の推進)
鬼怒地域学校園の共通テーマ: 学習面「読解力の育成」, 生活面「自己肯定感の育成」
- ・家庭や地域への周知強化
(学校だより「小中一貫教育, 地域学校園」に関する内容の掲載)
- ・鬼怒中学校との連携強化
(あいさつ運動, 宮っ子チャレンジ, 小中乗入れ授業, 児童に関する情報交換会)
- ・地域学校園小学校との連携強化
(地域行事に関する情報共有, 冒険活動教室における連携等)

(3) 不登校対策

① 基本的な考え

信頼関係に基づく望ましい学級経営を展開し, くじけない強い心の醸成や自己肯定感の育成を図るなど, 不登校の未然防止に努めるとともに, 教職員間の情報共有や, 家庭との連携を強化する。連携強化を図ることにより, 児童一人一人の変化を的確に捉えるなど, 悩みや不安の早期発見や組織的な早期対応に努める。

② 主な取組

- ・未然防止
(自己肯定感の育成, まごころ週間 (人権教育週間) の実施, 道徳の授業充実)
- ・早期発見, 早期対応
(全教職員による日々の児童観察, 年2回の教育相談, 児童理解のためのアンケート実施, Q U検査, 保護者懇談, 個に応じた支援, 児童指導連絡会議)
- ・教職員の資質向上, 組織力の向上
(児童理解や教育相談に関する研修実施, 組織的な対応, 風通しの良い職場づくり)
- ・宮っ子心の教育の推進

(4) G I G Aスクール構想

① 基本的な考え

G I G Aスクール構想の実現を目指し、これまでの取組を基に1人1台端末を効果的に活用し、個別最適な学びや、協働的な学びを実現するとともに、児童が安全に、そして責任をもち、互いを思いやりながら利用するデジタルシティズンシップ教育を推進する。

② 主な取組

- ・情報活用能力の育成（協働学習ツールの更なる活用）
- ・デジタルシティズンシップ教育の推進（市教委出前講座等の活用）
- ・校内研修の実施（I C T支援員の活用）

(5) 宇都宮学

① 基本的な考え

グローバル社会に主体的に向き合い、よりよい社会を創る担い手となるとともに、異なる文化をもつ人々とともにたくましく未来を生き抜く宮っ子を育むため、地域資源の活用や、地域人材との協働を通して、児童が郷土への愛情と誇りをもてるように努める。

② 主な取組

- ・体験活動の促進（校外学習の実施や学校支援ボランティアの活用）
- ・郷土の魅力の理解促進（郷土の特色やよさに関する体験的な学びの実施）
- ・郷土の魅力を表現（協働的な学びを通じた学習による学びの実施）

(様式2)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	2 3	学校名	宇都宮市立平石中央小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	--------------

令和5年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

【国語】

- ・ 5年は二つの領域をのぞいて上回った、6年はすべての領域で市や県の正答率を下回った。「話すこと、聞くこと」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域下回ったことが5年にも6年にも共通している。特に「話すこと・聞くこと」で、話の中心を捉えて聞いたり、自分の考えを明確にして話したりする設問で共通して課題が見られた。また「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、漢字の読み書き、ローマ字の読みや修飾語の理解で課題が見られた。これらのことから、「読み・書き」の基礎基本をしっかりと押さえ、語彙力を高めるとともに、文や資料をていねいに読み、深く分析することを通して、自分の考えを明確にし、文章化することについて指導していく必要があると考えられる。

【算数】

- ・ 県の調査では、領域の正答率に学年間の差があり、5年は、「図形」と「データの活用」の領域で市や県の正答率を下回った。6年は「変化と関係」の領域をのぞいて市や県の正答率を上回った。「数と計算」の領域は比較的、どちらの学年でもよくできていた。5年においては、グラフを正しく読み取る設問で課題が見られた。グラフを的確に読み取る経験を積み、様々な情報を読み取れるようにしていきたい。また6年では、伴って変わる2つの数量関係の設問で課題が見られた。日々の生活と結び付けて扱うようにし、より具体的にイメージをつかめるようにしていきたい。そして、どちらの学年も自分の考えを式、図、言葉で説明する活動を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図りたい。また、数多くの多様な問題に取り組ませることで応用力を高めたい。

【理科】

- ・ 5年、6年共通して「物質・エネルギー」で市の平均正答率を上回ったが、「生命・地球」で下回った。どちらの学年も実験の方法や操作の技能は身に付いているが、実験の結果から関係性を自分なりにまとめ、理解する力には個人差がある。理由などについて話し合いの時間を取ったり、まとめの時間に文章で書かせたりして内容を深く理解できるようにする必要がある。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「勉強が好きですか」の問いに、50人中44人が「好き」「まあ好き」と答えている。
- ・ 授業への取組についての「授業に必要なものは忘れずに持ってきている」「先生や友だちの話を最後まできちんと聞いている」「授業を集中して受けている」という問いや、学習に対する気持ちや態度についての「学習をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という問い に対しては、どの学年でもおおむね肯定割合が高い。
- ・ 家庭学習では、低・中・高学年すべての学年で、授業日は市のスタンダードに示されている時間は学習していると回答する児童の割合は高くなっている。しかし休日については、低学年は平日と同様に取り組んでいる児童が多いが、中・高学年では、市のスタンダードより短く答える児童が多い。毎日の学習の習慣化は図られているが、学年が上がるにつれて休日はあまり取り組めていないことが分かる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 児童は全体的に落ち着いた態度で学習を進めている。グループ学習にも進んで取り組み、協力し合って課題解決に当たっている。
- ・ 話し合い活動にも意欲的に取り組むが、司会を中心にした話し合いや、話の内容に対して自分の考えを述べる力には個人差がある。自分の考えを文章に表すことに苦手意識を持っている児童も多い。自分の考えを発言できる力を身に付け、協働学習の充実へとつなげたい。
- ・ 作業的な学習には熱心に取り組むが、学習した事柄を活用していこうとする意欲や態度には、個人差が見られる。

2 今年度の重点目標

基礎学力の定着を図る授業展開

—朝の学習や家庭学習を活用した学習習慣の形成—

3 今年度の取組

(「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★,「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□, 授業における取組のうち重点は文頭に○)

(1) 基礎・基本の確実な定着

- ★□○話の聞き方, 発表の仕方, 話し合いの進め方など学習態度や学習技能の指導の徹底 (通年)
- ★□ 漢字や計算小テストの実施による基礎事項の反復練習 (通年)
- ★□ 発達段階に合った分量・内容の宿題等, 家庭学習の習慣化 (通年)
- ★□○日常での言語環境の整備, 語彙を増やす指導の工夫

(2) 学習指導の工夫・改善

- 朝の学習の時間の活用 月・木 読書 火 視写【月1回】 水 国語 金 算数 (通年)
- 家庭学習振り返りカードの実施 (2回)
- 複式学級の効果的な学習指導の工夫と共通理解 (通年)
- ★□ タブレットの効果的な使い方の工夫と共通理解 (通年)
- ★□ 学習内容定着度調査, 学習と生活についてのアンケートの結果の公表 (3月)
- ★□ TT指導や習熟度別指導による個に応じた, 分かる楽しい授業の展開と学習意欲の向上 (通年)
- グループ活動等を通して, 互いに認め合い学び合える支援の工夫 (通年)
- 視覚に訴えた分かりやすい資料提示や学習環境の整備 (通年)
- 図書館司書と連携した, 読書環境の充実, 及び, 読書の推進 (通年)
- 朝の時間を使った継続的な読書の推進 (通年)

(3) 授業の充実

- ★□○児童が必然性を感じるような話題の設定と学習方法や学習形態の工夫 (通年)
- 学習のねらいや見通しをつかむことができる導入の工夫 (通年)
- 児童の立場に立った話し合いの支援と学び合う時間の確保 (通年)
- 分かりやすい板書の工夫とノート指導の充実 (通年)
- 児童が考えの深まりを実感できるような学習のまとめや振り返る活動の充実 (通年)

(4) 家庭・地域との連携・協力

- ・ 年3回の保護者会を利用した家庭学習の進め方についての周知 (通年)
- ・ 児童による自己評価「振り返りカード」を活用しての個人懇談の実施 (7月)
- ・ 読み聞かせの実施 (ボランティア毎月1~2回)
- 家庭読書の奨励 (通年)
- ★□学習内容定着度調査, とちぎっ子学習状況調査の結果を生かした説明 (4月)

(様式3)

校 種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	2 3	学校名	宇都宮市立 平石中央小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	---------------

令和5年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・暴力行為の件数は0件であった。全児童が落ち着いた態度で学校生活を営むことができた。
- ・発生したいじめの件数は3件であった。いじめの内容としては、からかい・仲間外れ・軽くたたかれる・持ち物の破損などであった。いずれも解消し日常的に経過観察を行った。
- ・不登校の件数は1件であった。家庭と密に連絡を取り合いながら、教職員全員が共通理解のもとに対応し、登校できるようになった。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

「宇都宮市マネジメントシステム」から児童指導と関連が強い質問項目の内「児童」が主語になっている回答について、児童の肯定的回答を抜粋

- ・児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。100.0%
- ・児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。100.0%
- ・児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。95.9%
- ・児童は、時と場に応じたあいさつをしている。98.0%
- ・児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。98.0%
- ・児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている 100.0 %
- ・児童は、時と場に応じた丁寧な言葉づかいをしている。 89.8%
- ・児童は、友達と学び合いながら楽しく学習している。100.0%

本校児童は、夢や希望をもち、学習に真面目に取り組む、きまりを守って、友達と仲良く過ごしていると考えている児童が非常に多い。その中で、言葉づかいに関する項目がやや低い傾向が見られる。

「宇都宮市学習内容定着度調査『学習と生活についてのアンケート』より、スマートフォン等インターネット接続機器関連の所持・使用傾向について抜粋

- ・スマートフォン所持率は、学年が上がるほど増える傾向が見られる。
- ・動画等の視聴・ゲームの時間は学年によりばらつきがあるが、週末・休日に長くなる傾向がある。

(3) 学校生活の状況から

- ・児童数が少ない小規模校のため、全学年が協力し合って生活できている一方で、人間関係の調整や改善する力に弱い面が見られる。

- ・学校内では、進んで挨拶をする児童が増加傾向にある。地域住民や保護者に対しても進んで挨拶をしている様子が見られる。
- ・場に応じた言葉遣いについて、ほとんどの児童が気を付けるようになっている。一方で、言葉遣いで友達を傷つけてしまう場面も見られる。
- ・決められた役割や指示されたことには一生懸命に取り組むことができるが、進んで意見を述べたり話し合ったりする活動には消極的な傾向が見られる。
- ・ゲーム機を使ったネット対戦型ゲームやクロームブックを使った交流等、インターネットを使ったコミュニケーションも日常的に行っている。

2 今年度の重点目標

- 夢に向かって、粘り強く取り組む児童の育成

— 家庭と連携し、児童の自己肯定感を育む取組の推進 —

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 基本的な生活習慣を身に付ける指導の充実

- ★□ 「平央小よい子の一日」や月目標をもとに、道德教育や特別活動との関連を図りながら、発達の段階に応じた規範意識の醸成、向上に努める。
- ★ 挨拶と会釈・場に応じた言葉遣い・時間を守って生活する等、礼儀・挨拶に関する指導を継続的に行う。
- ★ 地域協議会・PTAと連携を図りながら、児童主体の「あいさつ運動」を行う。
- ★□ 「考え・議論する道德」を実現するために、道德科の授業改善に取り組む。
 - デジタルシティズンシップの考えを取り入れたネット社会のリテラシー教育の推進に取り組む。

(2) いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応

- ★□○いじめについての職員研修や職員会議や学年会等で日頃の児童の情報交換を行い、いじめの対応について共通理解を図る。
- ★□○教育相談やアンケートにより、いじめや生活に関する調査を年4回行う。
- ★□○学級活動や道德教育の時間等で、いじめを許さない態度や実践力を育てる授業を行う。
- ★□○児童会を中心とした「いじめゼロ」運動を年2回行い、児童が主体的にいじめの未然防止や解決を行うための実践力を養う。

(3) 児童の自己肯定感を育成する学校づくり

- ★□○Q-Uに関する研修を行い、一人ひとりの児童理解に努め、学級経営に生かす。
- ★□○まごころ週間(人権教育強調週間)の活動を通して、人権意識や実践力を高める。
- ★□○日頃から児童の努力や取り組みを認め・励ます言葉かけを意識して行う。
 - 児童が意欲的に学び、学んだ意義や喜びを実感できるように、「主体的・対話的・深い学び」の授業改善に取り組む。

★□○活動や学校行事出等で、児童が自分自身の活躍や、やりがいを体感できる機会を設ける。

(4) たくましさを涵養するための体験活動や縦割り班活動の充実

★□ 学習や特別活動等・異学年による集団活動を通して、立場や役割に応じた振る舞いや、目的に向かって互いに協力し合うことの大切さを実感させる。また、集団活動を通して友達のよさを発見し互いに認め合える望ましい人間関係の育成を図る。

★□ 様々な学習活動で、目標をたて挑戦し振り返ることで、学んだ意義や自己の成長を実感させる。

★□○学習や特別活動で、児童が最後までやり遂げられるように個に応じた支援や指導を行う。

★□ 生活科や総合的な学習の時間等における生命尊重・心身の成長・にかかわる学習，異年齢や高齢者との交流等，体験的な活動等を通して，相互理解の態度を育てる。

(5) 家庭，地域，関係機関との連携

★□ 各種懇談や各種便り等で、家庭や地域と基本的な生活習慣や「いじめゼロ運動」の取り組みを共通理解し、学校・地域・家庭が同一步調で子供の成長を見守れるようにする。

★□ 昔遊び集会に地域のお年寄りを招待したり，ボランティアティーチャーとふれ合ったりすることにより礼儀を身に付け，思いやりの心を育む。

★□ 地域清掃活動や高齢者施設を訪問して交流するなどのボランティア活動に取り組み，勤労や社会奉仕の尊さを体験させる。

★ ○地域学校園内の児童生徒指導強化連絡会等を通して児童生徒に関する情報を共有し，児童への適切な指導や問題行動の未然防止を図る。

(様式4)

校 種	小・中 どちらかに○	学校番号	2 3	学校名	宇都宮市立平石中央小学校
-----	---------------	------	-----	-----	--------------

令和5年度 健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食育・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・ 男子の体格については、身長では全国や県の平均を下回っている学年が多く、体重では上回っている学年が多い。女子の体格については、身長体重共にほとんどの学年で全国や県の平均を上回っている。
- ・ 低視力者の割合は、全国の平均を下回っている。一方で、むし歯保有率は全国の平均を上回っている。
- ・ 元気っ子健康体力チェックの結果と全国の平均値を比較すると、男子では上体起こしやソフトボール投げ、反復横跳びが平均を上回る学年が多く、握力、長座体前屈で平均を下回る学年が多い。女子は、全ての種目で平均を上回る学年が多い。

(2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）

【体力向上】

「運動やスポーツをすることが好きですか。」の質問に対する肯定的回答の割合が94%、「健康や体力に自信がありますか。」の質問に対する肯定的回答の割合が82%、「休み時間や放課後、休日などに自分から進んで運動するようにしていますか。」の質問に対する肯定的回答の割合が80%と、どれも市の平均を上回っており、運動が好きな児童や進んで運動する児童が多い。

【保健教育】

- ・ 「早寝早起きを心がけていますか」の質問に対する肯定的回答の割合が63%、1日の睡眠時間について8時間以上と回答した児童の割合が74%で、どちらも市の平均を上回っている。
- ・ 「健康診断で指摘されたところは早めに治療していますか。」の質問に対する肯定的回答の割合は65%で、市の平均を上回っている。

【食育】

- ・ 「朝食を食べている」「栄養バランスを考えて食べることは大切だと思う」の問いに対して、ほとんどの児童が肯定的回答を示している。
- ・ 「好き嫌いをしないで食べている」の問いに対して、肯定的割合が昨年度より1.2ポイント下がった。

【安全教育】

- ・ 「交通事故にあわないよう、交通ルールを守っている」「不審者から自分の安全を守るための行動を心がけている」「自分や身の回りの人々の安全に気を配り、安全に行動している」の問いに対する肯定割合が全学年で100%である。

(3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

(※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。)

【体力向上】

体育の授業や体育的行事に積極的に取り組む児童が多い。どの学年も業間や昼休みに積極的に外遊びをする児童が多い。

【保健教育】

- ・ 児童は手洗いやうがい、黙食などの感染症対策に積極的に取り組んでいる。
- ・ 毎週のフッ化物洗口や長期休みの生活習慣チェックを真面目に取り組んでいる。
- ・ ほとんどの家庭で、健康診断で異常があった場合にすみやかに医療機関を受診している。

【食育】

給食で嫌いなものを一口でも食べようと努力する姿が見られるが、献立によっては残食する児童も若干名いる。ほとんどの児童が完食をしている。

【安全教育】

交通安全教室や避難訓練等の行事は、安全を意識し真面目に取り組んでいる。

2 今年度の重点目標

自らの心身の健康に関心を持ち、進んで健康・安全な生活をしようとする児童の育成

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，

「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□）

(1) 体力向上

- ★□体育での準備運動や補強・補助運動（平央サーキットトレーニング）の充実及び各領域での筋力アップを意図した指導の工夫（通年）
- ★□健康増進と運動の日常化を図る業間運動「平央タイム」の実施（通年）
- ★□「うつのみや元気っ子プロジェクト」ミニマム達成を意図した発達の段階に応じた指導の充実（通年）
- ★□元気っ子健康体力チェックの結果分析と課題改善のための授業の工夫及び個人差に応じた指導の実施（通年）
- ★□長縄大会の実施（1・2月）

(2) 保健教育

- ★□保健だよりの定期的な発行（通年）
- ★□学校歯科医の協力による歯科検診の実施（年2回）や週1回のフッ化物洗口
- ★□「歯の健康教室」の実施（9月）
- ★□歯と口の作文・標語・ポスターの募集，掲示（3月，4月，6月）
- ★□鬼怒学校園統一でのキラキラウィークの設定（歯と口の健康に関する啓発）（6月）
- ★□生活習慣（睡眠，朝食，排便）チェックの実施（6月，8月，1月）
- ★□薬物乱用防止教育の実施（2月）
- ★□定期健康診断の結果通知（7月）
- ★□学校保健委員会での情報交換（1月）

(3) 食育

- ★□食育だよりの定期的な発行（通年）

- ★□おにぎりの日・お弁当の日の充実（１０月・１２月）
- ★□生活習慣（睡眠，朝食，排便）チェックの実施（６月，８月，１月）
- ★□学校給食委員会での情報交換（１月）
- ★□食育と学級活動や保健，家庭科の学習との連携（随時）

（４）安全教育

- ★□市役所の協力による交通安全教室（６月）
- ★□自転車免許事業（６月：４年）
- ★□不審者を想定した防犯教室の実施（７月）
- ★□地域安全マップの作成とその活用（４月～７月：５学年）
- ★□地震，火災を想定した避難訓練（４月，９月，１１月）
- ★□「防災教育の手引き」を活用した竜巻対応訓練（隔年・随時）